

# 年間 576,000件の経費書類の ペーパーレス化と障害者雇用の拡大 ～パーソルグループの挑戦～



パーソルホールディングス株式会社  
グループ財務部 プロジェクト推進室

なか やま りゅう た ろう  
中山 龍太郎



## パーソルグループの紹介

PERSOL (パーソル) は、はたらくを通じた成長を支援し、人と組織に関する社会課題を解決していく企業グループです。

創業は1973年、現在のパーソルテンプレスタッフが設立された年です。代表は水田正道、昨年度の売上高は9258億1800万円、4万5,434名の従業員がパーソルグループで働いています。

パーソルグループでは「テンプレスタッフ」「doda」をはじめとした、人と組織にかかわる多様なサービスを展開しています。

人材派遣、人材紹介をはじめとし、ITアウトソーシング、設計開発にいたるまで、国内外77社の幅広い企業群で構成されています。

## パーソルとは？

「PERSOL (パーソル)」は、2016年7月に誕生した新たなブランドです。ブランド

名の由来は、「人は仕事を通じて成長し (PERSON)、社会の課題を解決していく (SOLUTION)」。働く人の成長を支援し、輝く未来を目指したいという想いが込められています。

ブランドシンボルは、PERSOLの「P」をモチーフとしています。ファインダーにも見えるこのシンボルは、働く一人一人ひとりに焦点を当て、将来を見据えていこうという姿勢を表しています。

メインカラーは「PERSOL GRAY」(パーソルグレー) です。グループの規模や事業の多様性で世の中を変えていくダイナミックさと、高い専門性で革新的なソリューションを生み出す知性を表しています。あらゆる人や組織に寄り添い、引き立てることができるブランドでありたいとの想いを込め、無彩色のグレーを選んでいきます。

グループのビジョンは「はたらくて、笑おう。」です。すべての「はたらく」が、笑顔につながる社会を目指して労働・雇用の課題の解決に総合的に取り組んでいます。

## グループ拡大に伴う シナジーの創出プロジェクト

パーソルグループ拡大に伴う各社の会計分野において情報基盤の整備、および事業面のシナジー創出を推進するため、2016年4月よりグループ共通の経営情報基盤を導入するプロジェクトを開始。パーソルグループとしてのルール統一に成功しました。

そして、より一層のシナジー創出を目指し、以下を目標として掲げ、更なる経理業務の効率化を目指して取り組みました。

①紙保存をしていた証憑類を電子保存することにより、データ管理を容易にし、業務改善の実現・ガバナンス強化

【課題1】紙ベースで保存をしていたため、すぐに対象の証憑を探すことができなかった。

【課題2】内部監査では、会計データを頼りに大量の紙の中から対象証憑のチェックを行っていたため非効率だった。



### ペーパーレス化に対する効果

年間約200箱の書類をペーパーレスに！

今後追加でe文書化をすることにより、更なるペーパーレス化を目指す

コスト、機能充足度、効果の3点で比較しました。とくに機能の充足度については大切であり、必要なシステム機能をまとめました。

重要視したのは、PDF化する際に、複数の書類を会計システムで申請された単位でPDF化し、申請データと帳票の紐づけができる点です。システム相関図の制作をしてシステムベンダーと打ち合わせを重ね、会計システムから出力される情報とスキニングされた情報を1つにまとめ、保存する仕組みを構築しました。また、その保存データを簡単に検索して閲覧可能にするようにしました。

この他にもDataDeliveryが国税要件を満たせるように、システムベンダーにサポート頂けたことは、今回のプロジェクトの成功に大きく寄与しました。

そして最大のチャレンジは、今までやっていなかったスキニング業務をどうやって障害者の方々にやってもらうのか、その運用フローを考えることでした。

今回は受託サービス事業、人材紹介事

【課題3】経理が紙の申請書をチェックしており、すべて目検だったため、ヒューマンエラーも多かった。

### ②業務標準化を通じて、経理業務の一部と電子帳簿保存法の対応

【課題1】やり方が各社バラバラで、属人化しやすく経理側の工数が膨大だった。

【課題2】汎用性がなく、システム統制が取れていなかった。

【課題3】業務難易度に差がある複数の業務を1人で担当しており、適材適所に人を配置できなかった。

この業務・帳票範囲は、データのチェックや文書を保存するなど、定型化・ルール化が比較的しやすい領域であり、きちんと業務仕訳をすることで障害者・健常者で役割分担をして進められる領域と想定しました。

また、全グループ会社の請求書・立替精算業務を統合したことにより、月45,000件もあった申請書を一か所に集めペーパーレス化を叶えました。

次に、システム選定をするにあたっては、

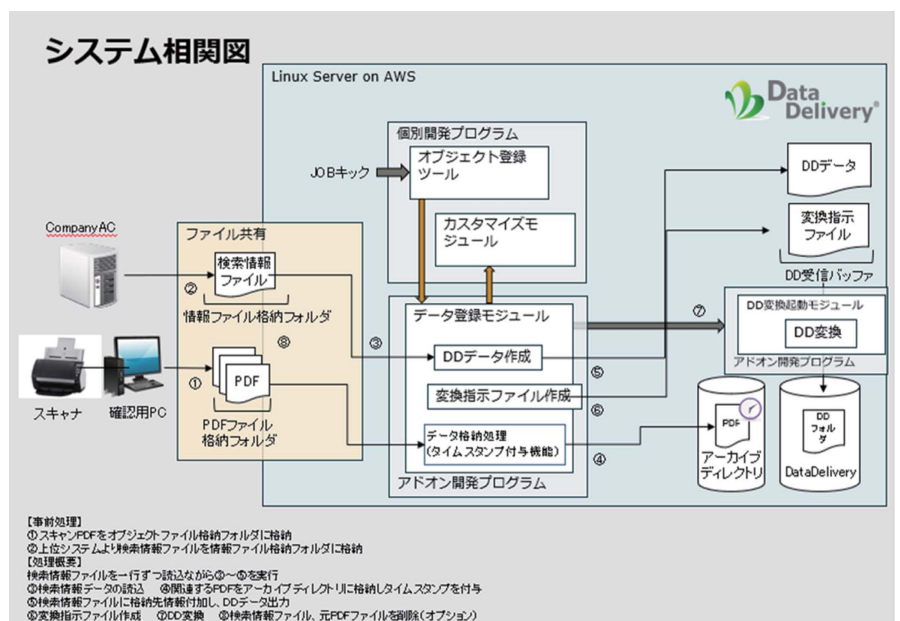
### ③パースルチャレンジ (パースルグループの特例子会社)の障害のある社員にアウトソースすること

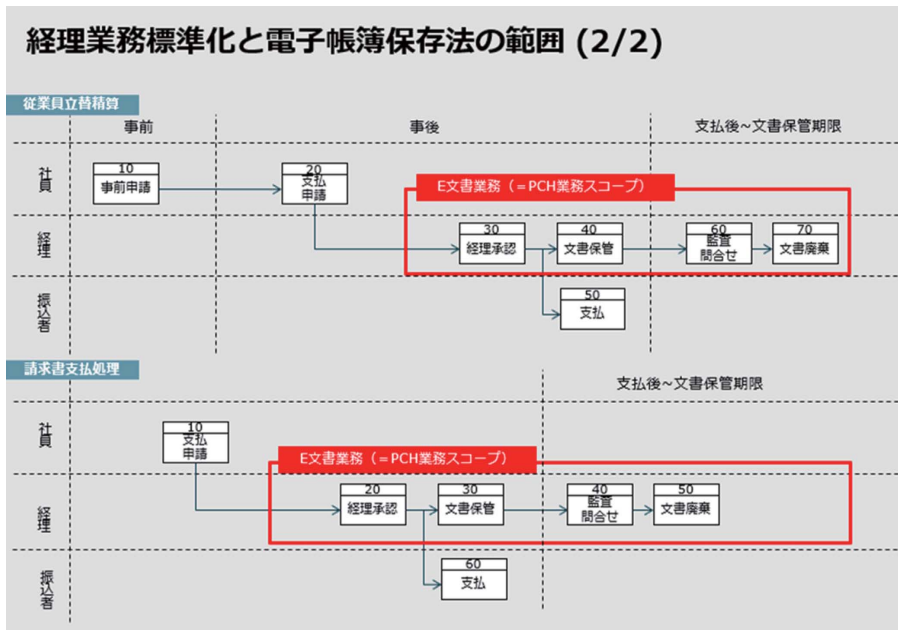
【課題1】単純作業と専門性の高い業務が一緒になっており、経理が専門性の高い仕事に時間を割くことができていなかった。

【課題2】各社似たような仕事があるのに、それぞれの経理担当が行い業務効率が悪かった。

【課題3】グループとして障害者雇用の更なる拡大に取り組む必要があった。

まず、電子帳簿保存及び業務の標準化として臨んだのは、請求書支払処理及び社員の立替精算とその際に発生する領収書や請求書の保存です。





ングスケジュールを立て、計画的にスキャニングをこなすことで、障害者の方々にも無理なく承認、スキャニング作業を行って頂くことができるようになりました。

結果、従来7年間以上の保存が必要だった書類(年間約200箱)のペーパーレスを実現。またパーソルチャレンジでは、東京大阪で15名の障害者雇用を創出することに成功しました。

そして何より嬉しかったことは、障害者のメンバーがパーソルグループ全体に影響する業務を受託することで、グループに対する貢献、存在意義を感じることができる“はたらく”を創出したことです。今後も、グループ各社のペーパーレス化をさらに加速させるとともに、さらなる障害者雇用の創出を目指していく予定です。

各社の経理業務フローの見直しやルール策定、業務の標準化など、プロジェクトを進めるうえでは、予想していなかった課題の連続でした。

しかし結果として、社会が直面している労働・雇用の課題に対して、プロジェクトメンバーや関係者の前向きな姿勢、惜しめない努力と協力があり、成し遂げることができたと思っています。

仕事をしていく中で、さまざまな困難を乗り越えたとき、そして、その努力が実を結んだとき、人はまた一步成長します。この取り組みは、グループビジョンである、『はたらいて、笑おう。』を体現したプロジェクトだったと実感しています。

我々はこれからも、働くことそのものを輝かせ、人生を楽しむことにつなげていくために、すべての“はたらく”人を支援したい。

そしてすべての「はたらく」が、笑顔に繋がる社会を目指して、取り組んでいきたいと思っています。

## パーソルチャレンジのミッションステートメントと事業領域

### 障害者雇用を、成功させる。

<b>受託サービス事業</b> <b>事務系業務のアウトソーシング</b> グループ各社の事務系業務を受託 障害特性に配慮し、特性を生かして活躍し続けるための仕組みや体制づくり	<b>人材紹介事業</b> <b>dodaチャレンジ</b> 障害者のための求人・転職サービス <b>コンサルティングサービス</b> 特例子会社設立、採用代行、定着支援、研修など 企業の雇用フェーズに合わせた支援	<b>雇用支援事業</b> <b>就労移行支援事業所の運営</b> 一般企業への就職や安定就労をサポート <b>障害者雇用支援に係る各種公共事業の受託</b>
---	--	--

パーソルグループにおいて、障害者雇用関連サービスに特化した3つの事業を展開

業、雇用支援事業の3つの事業を展開している「パーソルチャレンジ」の、グループ各社の事務系業務を受託している受託サービス事業部に委託しました。

タと原本の相違チェックや原本到着確認など比較的ルール化しやすいもの、そして専門的な知識が必要なものに役割分担をして業務プロセスを構築しました。

現場からの申請書の提出をすべてパーソルチャレンジへ集約させることにより、申請の承認からe文書化のスキャニングまでスムーズに行える体制を整えました。

申請期限を厳格化して、毎月のスキャニ

### 業務プロセスの構築からペーパーレス実現へ

例えば、経理承認の中でも、申請書デー